

西海道跡

－福岡県筑後市大字西牟田・一条所在遺跡の調査－

序

福岡県教育委員会では、県道84号三潴上陽線交差点改良事業に伴い、筑後市大字西牟田・一条に所在する西海道跡の発掘調査を実施しました。

遺跡の位置する筑後市内では、古代の道路（西海道）に関わる遺跡が多数確認されていました。今回の調査では、筑後国府以南の西海道の一部と考えられる側溝を確認しました。この側溝が西海道推定線上で検出されたことから、古代の道路を復元する上で貴重な資料を得ることができました。

本書が埋蔵文化財に対する認識と理解、文化財愛護思想の普及と学術研究の一助となれば幸いです。

なお、発掘調査及び報告書作成に当たり、御協力をいただいた地域の方々をはじめ筑後市教育委員会、福岡県八女土木事務所など多くの関係者の皆様に深く感謝いたします。

平成21年3月31日

福岡県教育委員会
教育長 森山 良一

例 言

- 1 本書は平成20年度に県道三潞上陽線交差点改良事業に伴い、福岡県教育委員会が発掘調査を実施した筑後市大字西牟田・一条所在の西海道跡の文化財調査報告書である。
- 2 出土遺物の整理は九州歴史資料館において、文化財保護課濱田信也の指導の下で実施した。
- 3 本書に掲載した遺構・遺物図は坂本真一、西堂将夫が作成した。製図は豊福弥生、原カヨ子、江上佳子が行い、土山真弓、安永啓子、山田智子、辻清子がこれを補助した。遺構・遺物の写真は坂本・北岡伸一が撮影した。
- 4 本書に使用した方位は座標北である。
- 5 本書の執筆及び編集は坂本が行った。

本文目次

I	はじめに	1
1.	調査の経過	1
2.	調査の組織	1
II	位置と環境	2
III	発掘調査の記録	5
1.	調査の概要	5
2.	遺構	7
3.	遺物	10
IV	おわりに	11

写真目次

写真1	西海道跡（南から）	3
写真2	1区全景（西から）	5
写真3	2区全景（西から）	5
写真4	1区北壁土層（南西から）	6
写真5	2区北壁土層（南東から）	6
写真6	1区1号溝（南から）	7
写真7	1区2号溝（北から）	7
写真8	2区東端検出遺構（南西から）	9
写真9	2区3・4・5号溝（南から）	9
写真10	2区3号溝土層（南から）	9
写真11	2区4・5号溝土層（南から）	9
写真12	2区3・4・5号溝（北から）	10
写真13	2区路面部分（南西から）	10
写真14	2区出土遺物	10
写真15	現在の調査地風景（西から）	11

挿図目次

第1図	西海道跡（筑後市）の位置	1
第2図	筑後国府以南の西海道（1/50000）	2
第3図	西海道跡周辺地形図（1/500）	4
第4図	西海道跡全体図及び土層図（1/120）	6
第5図	1・2区遺構実測図及び遺物実測図（1/40・1/3）	8
第6図	筑後国府以南検出の道路遺構図1（4・6は1/300、他は1/600）	12
第7図	筑後国府以南検出の道路遺構図2（1/300）	13

表目次

表1	筑後国府以南で検出した道路遺構	14
----	-----------------	----



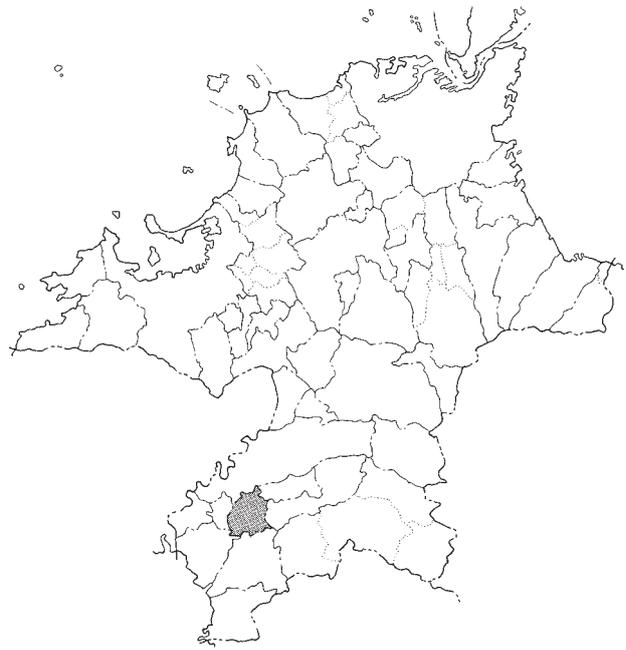
西海道跡（東から）

I はじめに

1) 調査に至る経緯と経過

西海道跡（筑後市大字西牟田・一条）は、南北に走る国道 209 号線と東西に走る県道 84 号三潴上陽線とが交わる一条の交差点の西側に位置する。主要地方道である県道 84 号三潴上陽線は、久留米市、筑後市、広川町、八女市間の約 19km を繋ぐ、重要な道路である。

今回、県道三潴上陽線交差点改良事業（道路拡幅）について福岡県八女土木事務所からの照会があった。当地点は、古代の道路（西海道）が推定されているため、平成 20 年 3 月 17 日に教育庁総務部文化財保護課が確認調査を行った。その結果、西海道の側溝が発見されたので、八女土木事務所と協議をし、本調査を平成 20 年 8 月 18 日～9 月 18 日間の 1 ヶ月に渡って実施した。



第 1 図 西海道跡（筑後市）の位置

2) 調査の組織

平成 20 年度の調査・報告に関わる福岡県教育委員会の関係者は以下のとおりである。

福岡県教育委員会

総括

教育長	森山 良一
教育次長	檜崎 洋二郎
総務部長	荒巻 俊彦
文化財保護課長	磯村 幸男（本副理事）
副課長	池邊 元明
参事	新原 正典
参事兼課長技術補佐	小池 史哲
参事兼課長技術補佐	伊崎 俊秋
課長補佐	前原 俊史

庶務

管理係長	富永 育夫
主任主事	近藤 一崇

調査・報告書作成

調査第一係長	小田 和利（本参事補佐）
調査第二係長	飛野 博文（本参事補佐）
参事補佐	濱田 信也（整理担当）
主任技師	坂本 真一（調査・報告担当）

なお、調査及び報告書作成に当たっては発掘作業員の方々及び筑後市教育委員会、福岡県八女土木事務所の関係者の皆様に多大な協力を得ました。記して感謝いたします。

II 位置と環境

古代の道路（西海道）の通る筑後市は、福岡県南部の筑後平野中央部に位置する。北は久留米市、南はみやま市、東は八女市、八女郡広川町、西は三潴郡大木町と接する。北から南にかけて八女台地のなだらかな傾斜地が広がり、人工灌漑河川の山ノ井川、花宗川が流れている。南には矢部川の自然堤防があり、西には筑後川・矢部川の堆積による三角洲性低地があり、クリーク網が発達している。人口は約 49000 人、温暖で肥沃な土壌、豊富な水を利用し、農業が活発な都市である。市の中心部には J R 鹿兒島本線、国道 209、442 号線が縦横に巡る。

筑後国の古代道路研究については、明治時代の吉田東伍『大日本地名辞書』、大槻如電『駅路通』から始まった。その後、古代道路研究が活発になったのは、1970 年代に入ってからである。木下良、高橋誠一、日野尚志らの歴史地理学の面から研究が行われ、地名や道路痕跡などから西海道の路線が推定されてきた。その後、道路自体の構造などの研究は、1980 年代に入ってからである。特に久留米市教育委員会による、筑後国府域の調査から道路遺構が検出されようになった。それにより、1983 年には松村一良、1994 年には水原道範、2004 年には神保公久、2007 年には小林勇作らによって発掘調査で検出された筑後国を通る西海道の研究が行われている。なお、この報告書では、これらの先学の研究を大いに参考にさせて頂いている。

筑後国を通る西海道は木下・松村の異なる 2 説があるが、筑後国府以南を通る西海道（第 2 図）については実際に西海道跡が検出されていることもあり、路線が詳細に復元されている。



第 2 図 筑後国府以南の西海道
(国土地理院発行の 1/50000 より)

筑後国府域を通過した西海道は、久留米市で北から西海道跡1次・古賀前・車地遺跡・西海道跡2次の4カ所で検出されている。久留米市諏訪野町の西海道跡1次では、幅7m以上の側溝をもつ道路跡が検出され、側溝は何度も掘り直した痕跡を確認している。古賀前・車地遺跡でも、側溝の掘り直しや路面幅が次第に縮小していく状態を確認している。その後、南にかけては現在まだ確認されておらず、間が空くが筑後市との市境近くの久留米市荒木町の西海道跡2次において、両側溝をもつ道路跡を確認している。



写真1 西海道跡（南から）

次に久留米市を通過した西海道は、筑後市大字西牟田の西海道跡へと繋がる。今回報告する西海道跡についての詳細は後述するが、西側側溝を確認している。現在用水路になっている東側溝との間で、約6～8mの道路幅が復元できる。また側溝は最低1回は掘り直した痕跡を確認している。この西海道跡から南へは、一部国道209号線と重なりながら筑後市中部を通る八女丘陵上の羽犬塚山ノ前遺跡で切り通し状、両側溝をもつ道路が確認されている。ここで検出された路面には、突き固めのピットなども検出している。なお、羽犬塚山ノ前遺跡だけ葛野駅家の関連で、時期が下るにつれて路面幅が広がっていく状態を確認している。さらに南では、山ノ井川口遺跡・山ノ井南野遺跡・鶴田木屋ノ角遺跡・鶴田牛ヶ池遺跡で西海道に関連する側溝などを確認している。現在確認された中で最南の鶴田中市ノ塚遺跡では、帯状の硬化面や両側溝などの道路跡が確認され、これら西海道の側溝からは、8世紀～9世紀前半頃の遺物が出土している。これよりさらに南では現在のところ福岡県内では、確認されていない。

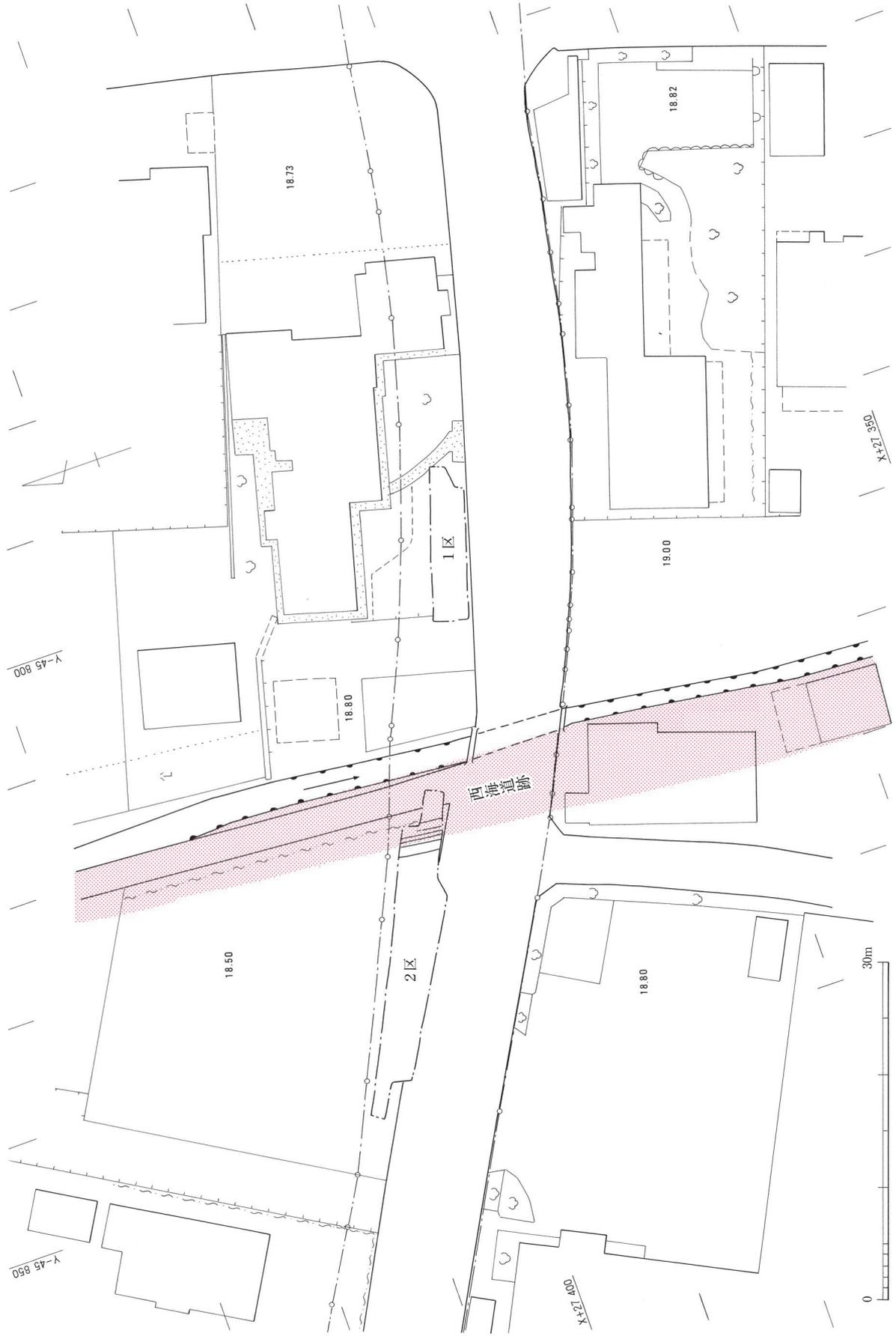
他にも西海道と関連のある遺跡では、羽犬塚山ノ前遺跡付近にある羽犬塚中道遺跡がある。ここでは奈良～平安時代の掘立柱建物群を検出し、土坑から「□郡符葛野」と書かれた墨書土器が出土し、葛野駅が推定されている。また西海道でないが、羽犬塚射場ノ本遺跡でも道路跡が検出されている。幅6～6.5mを測り、下妻郡家の方向へ至ることから伝路ではないかとも考えられている。

このように筑後国府以南の西海道は、久留米市内で4カ所、筑後市内で北から西海道跡・羽犬塚山ノ前遺跡・山ノ井川口遺跡・山ノ井南野遺跡・鶴田木屋ノ角遺跡・鶴田牛ヶ池遺跡・鶴田中市ノ塚遺跡で確認され、合わせて7カ所で痕跡が確認されたことになる。これらをもとに西海道についての研究が行われている。

(参考文献)

川添昭二編 2004「筑後市」『福岡県の地名』平凡社

(※論文・調査報告書についてはP14に記載)



第3図 西海道跡周辺地形図 (1/500)

Ⅲ 発掘調査の記録

1. 調査の概要（写真2～5 第3・4図）

西海道跡は、国道209号線と県道三瀨上陽線とが交わる一条の交差点の西側にある。調査前は、民地や田地として利用されていた場所である。調査地は、交差点に近い東側部分を1区（40㎡）、用水路を挟んで西側部分を2区（93㎡）の133㎡を対象とした。発掘調査は、平成20年8月18日に1区から順にバックホーでの掘削を始め、9月18日までに埋め戻して終了した。

1区では、第1層にバラスやゴミ類が堆積する表土、第2層に暗茶色土（バラス片など含む）、第3層に暗黒茶色土、第4層は黄橙色土に暗黒茶色土ブロックが混じる層、第5層に地山である黄橙色土層を確認した。遺構は、GLから60cm下の標高18.2mの第4層で溝2条を検出したが、交差点のある東側にかけては、削平され遺構はなかった。また、検出された土坑やピット状の痕跡は、埋土にゴミが混ざり全て攪乱であった。

2区では、第1層が表土や灰褐色砂質土、第2に青灰色粘質土の水田跡、第3層に暗茶色土に黄色土ブロックが混じる層、第4層に地山である黄色土を確認した。調査区内は田地化され



写真2 1区全景（西から）



写真3 2区全景（西から）

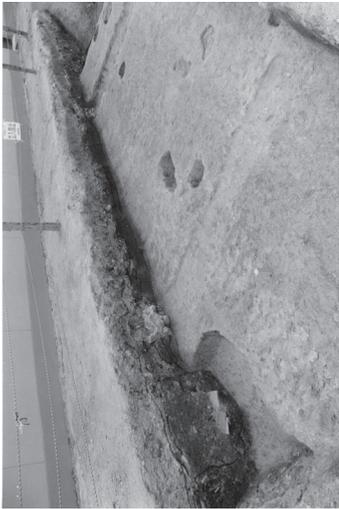


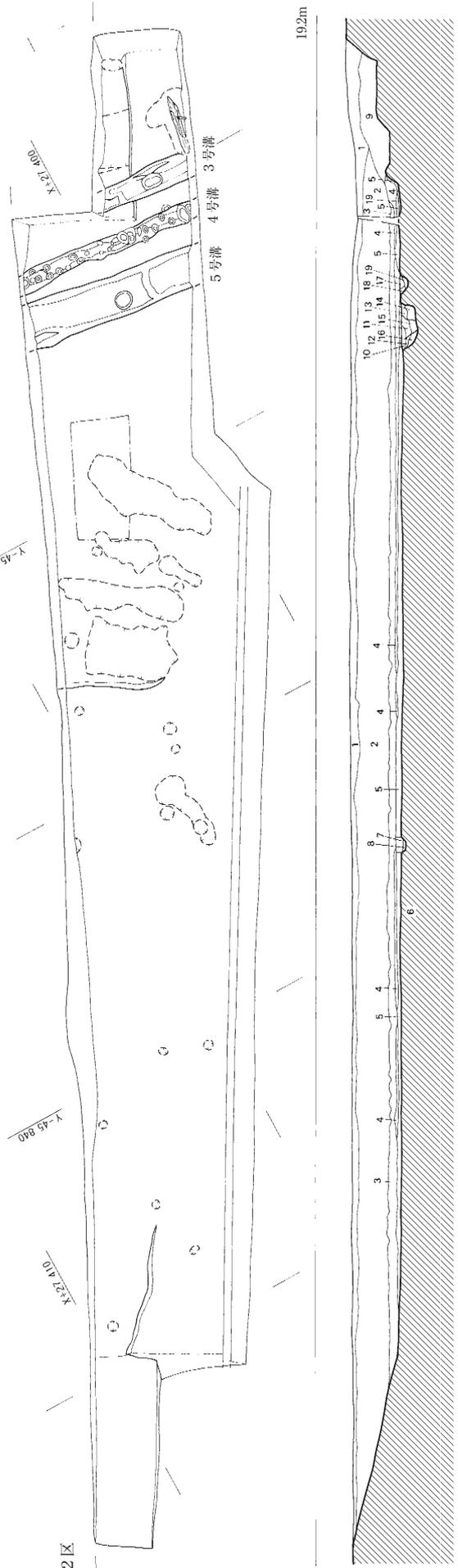
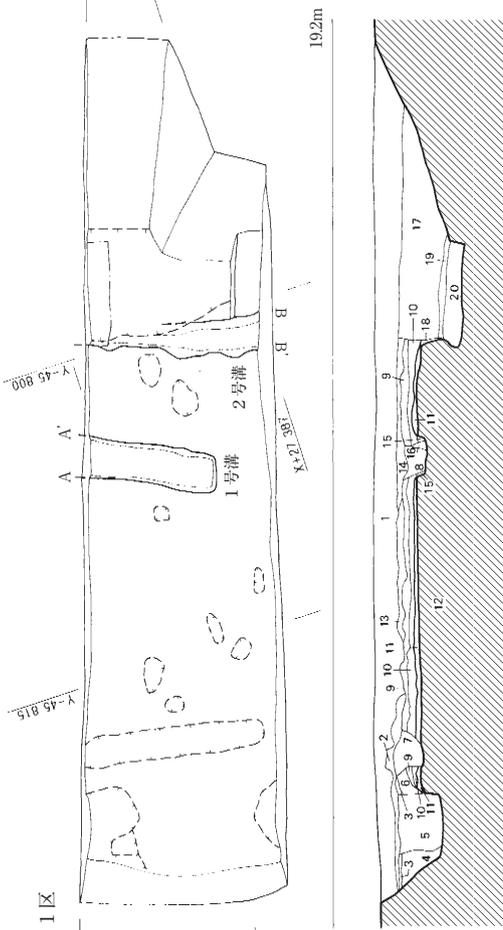
写真4 1区北壁土層 (南西から)



写真5 2区北壁土層 (南東から)

- 1区北壁土層
- 1 表土 (ガラス混じりの褐色土)
 - 2 緑灰色土
 - 3 黄褐色土に暗茶色土を少し含む
 - 4 暗茶色土
 - 5 攪乱
 - 6 暗茶色土に小石を含む
 - 7 攪乱
 - 8 攪乱
 - 9 暗黒茶色土に礫石を含む
 - 10 暗黒茶色土
 - 11 黄褐色土に暗茶色土を含む
 - 12 黄褐色土 (地山)
 - 13 9より礫石の量が多く含む
 - 14 9・13よりも礫石を多く含む
 - 15 10に近いが、黄褐色ブロックを少し含む
 - 16 10にゴミを含む
 - 17 5に似る (攪乱)
 - 18 暗茶色土 (溝2の埋土)
 - 19 暗茶色土 (攪乱)
 - 20 暗茶色土に黄褐色土ブロックを少し含む (攪乱)

- 2区北壁土層
- 1 表土
 - 2 灰褐色砂質土 (真砂土)
 - 3 青灰色粘質土 (麻土)
 - 4 褐色土 (表土に近い)
 - 5 暗茶色土に黄色土ブロックを含む
 - 6 黄色土 (地山)
 - 7 暗茶色土に黄色土ブロックが混ざる
 - 8 黄色土暗茶色土ブロックが混ざる
 - 9 褐色土 (ゴミが混ざる)
 - 10 濃い暗褐色粘質土
 - 11 暗褐色粘質土
 - 12 10に黄褐色粘質土ブロックを含む
 - 13 暗褐色土に暗茶色土を含む
 - 14 暗褐色砂質土に暗茶色土を含む
 - 15 12より黄色土を多く含む
 - 16 黄色土に暗茶色土を少し含む
 - 17 暗茶色土
 - 18 暗茶色土、暗黒茶色土、黄色土が混ざる
 - 19 17より黄色土が多く混ざる



第4図 西海道跡全体図及び土層図 (1/120)

た影響で、遺構はGLから約1 m下の標高17.8 mで西海道跡の側溝3条を検出した。また、調査区東端の路面部分については、田地化の影響をあまり受けず畔状に残存していた。この路面部分は、GLから50 cm下までほとんど単一層で埋没していて、その層を掘り下げると黄色土の地山を確認した。既存の電信柱の影響で調査範囲があまり確保できなかったこともあり、硬化面などの路面痕跡などの遺構は全く検出できなかった。また2区検出のピットにもゴミが混ざっており、全て攪乱であった。

今回の調査では、溝5条を検出し、2区の西海道の側溝(4号溝)から土師器片が1点出土した。なお、一条の交差点より東側部分については、確認調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、今回の調査から除外した。

2. 遺構

1) 1区(写真6・7 第4・5図)

1号溝

調査区内中央部分で検出した南北方向の溝で、確認できた長さで2 m、幅約60 cm、深さ15 cmを測る。埋土は暗黒茶色土に少量の黄橙色ブロックが混ざっていた。この溝は、最初ゴミが大部分を占めて埋められており、攪乱と考えたが、北壁土層の観察から溝の痕跡を確認できたので遺構と判断した。遺物は何も出土しておらず、時期は不明である。

2号溝

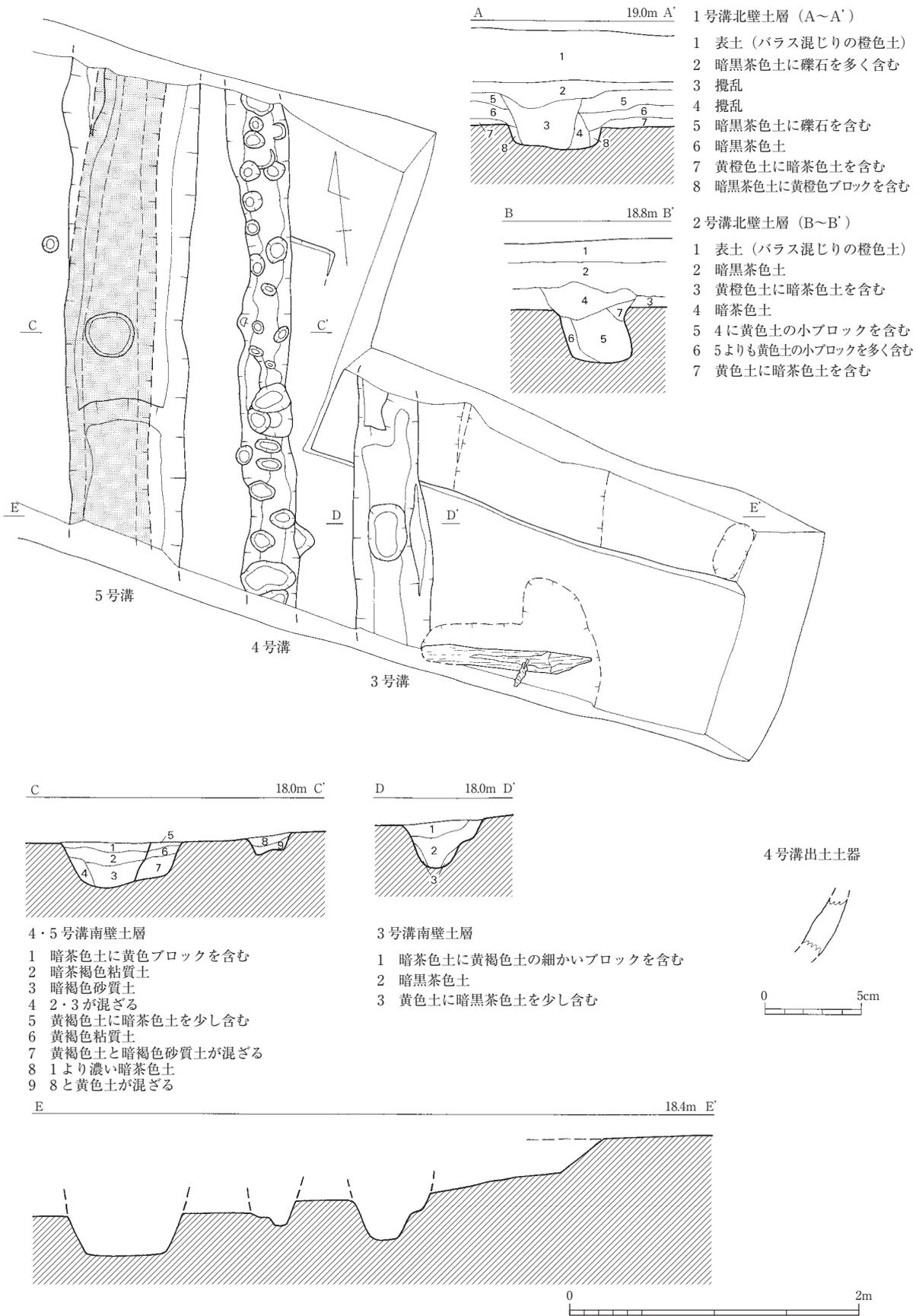
調査区西東側の攪乱によって大きく削平を受けた溝で、確認できた長さ約2.7 m、幅約65 cm、深さ60 cmを測る。埋土は、暗茶色土に黄橙色ブロックが混ざっていた。この溝も遺物は出土しておらず、時期は不明である。しかし、1号溝と同様な埋土や同方向に延びることから、同時期の可能性が考えられるが、古代の西海道や近世の盛徳在郷町との関係については共に不明である。



写真6 1区1号溝(南から)



写真7 1区2号溝(北から)



第5図 1・2区遺構実測図及び遺物実測図 (1/40・1/3)

2) 2区(写真8～13 第5図)
3号溝

調査区東側で検出した南北方向に走る溝である。確認できた長さ約1.8 m、幅50 cm、深さ5～30 cmを測り、北側に向って段々浅くなっていた。3号溝は、西海道跡の西側溝と考えられる5号溝と同一方向で埋土も似ていることから、この溝も西海道跡の側溝の1つと考えている。本来、溝が水田化による削平や攪乱の影響を受けなければ、東端で検出した路面部分の高さと同じではなかったかと思われる。遺物は出土していないので、溝の時期は不明である。

4号溝

3号溝の西側で検出した溝で、確認できた長さ約3.5 m、幅30～45 cm、深さ約15 cmを測る。唯一この溝のみ内部に15 cm前後の小ピット状の痕跡が無数に検出された。道路跡で検出される棒状工具の痕跡や歩行痕跡などかと思われたが、埋土は別段堅く締まっているわけでもなかった。他の溝と同じような状況から、道路に関連する溝と考えている。なお、この溝から唯一土師器の甕片が1点出土したが、小片のため、時期については、詳細な検討をすることができなかった。



写真8 2区東端検出遺構(南西から)



写真9 2区3・4・5号溝(南から)



写真10 2区3号溝土層(南から)



写真11 2区4・5号溝土層(南から)

5号溝

3号・4号溝と同様に南北方向に走る溝で、確認できた長さ約3.3m、幅80～90cm、深さ30cmを測り、断面は逆台形状を呈する。5号溝も他の溝同様に水田化に伴い削平され、東側の路面部分に比べ50cm程低い位置にあることから、当初の溝とは規模や形状が異なっていたと思われる。また溝は、現況で幅60～70cm、深さ30cmの掘り直した痕跡を確認した。なお、遺物は出土していない。

路面部分

路面部分は、水田化による掘削の影響を受けず、畔状に残存した部分で長さ80cmを測り、ここを路面にあたる部分と判断した。硬化面や波板状の痕跡は全く確認できなかった。しかし、残存する路面部分と1区の遺構面とのレベルには差がなく、おそらく路面部分は大きな削平を受けていなかったのではないと思われる。ここを路面部分と考えると調査区外の東側にある用水路と5号溝との間で約8m幅、3号溝との間で約6m幅に復元できる。なお、南壁側は木の電柱による攪乱を受けていたので、約10cm掘り下げたが、路面に関わる遺構はなかった。

3. 遺物 (写真14 第5図)

1は2区4号溝より出土した、土師器甕の体部片で、摩滅しているため詳細不明であるが、内面に僅かにナデ状の痕跡が残る。2は攪乱から出土した寛永通宝である。



写真12 2区3・4・5号溝 (北から)



写真13 2区路面部分 (南西から)

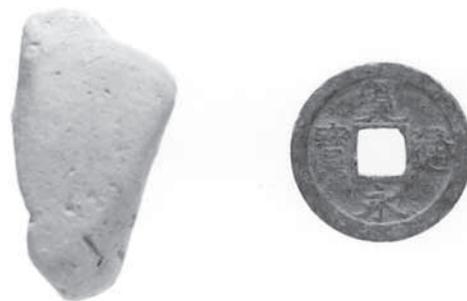


写真14 2区出土遺物

IV おわりに

今回の調査では、5条の溝を検出した。1区で検出した2条の溝は、遺物がなく詳細な時期は不明である。しかし2区で検出した西海道跡の側溝とは方位、埋土も異なることから、西海道跡との関連の可能性は低いと思われる。また1・2区で検出した土坑・ピット状の痕跡は、全て攪乱であり、近世の盛徳在郷町に関する遺構は、今回の調査から確認できなかった。今後周辺の調査で明らかになるとと思われる。

● 2区検出の西海道について

2区では、筑後国府から南下する西海道の西側溝を検出できた。今回の調査では3・4・5号溝が路線推定上に位置し、それぞれ同じ南北方向に延び、埋土も同じであることから西海道跡の側溝ではないかと判断した。溝の時期については、時期差があると思われるが、出土遺物は4号溝の土師器片1点のみしかなく詳細な時期を判断することができなかった。道路に関わる溝の特徴について述べると、4号溝では、溝底で小ピット状の凹凸痕跡を多数確認している。これは、山ノ井南野遺跡で検出された西側溝と似ている。また5号溝で確認した最低1回の掘り直しの痕跡は、同じ路線内の西海道跡1次、古賀前・車地遺跡、西海道跡2次、羽犬塚山ノ前遺跡、山ノ井南野遺跡などでも側溝の掘り直しの痕跡を確認している。

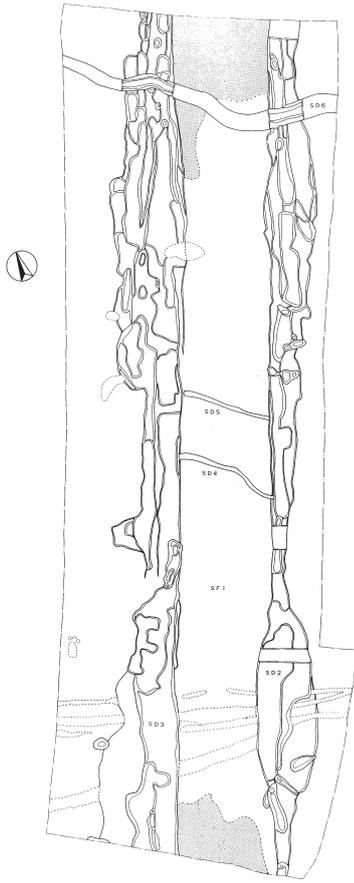
路面に関する構造については、この路線内から様々な状況を確認している。西海道跡1次では路面に施されたバラス敷き（3～5cmの小礫を敷き詰めた痕跡）の一部や羽犬塚山ノ前遺跡、山ノ井川口遺跡、山ノ井南野遺跡、鶴田中市ノ塚遺跡などで検出された帯状硬化面、波板状や刺突状やピット状の痕跡、また山ノ井川口遺跡の軟弱な地盤に施された盛土整地などがある。しかし調査区が狭く、後世の水田化などによる削平のためか、今回の調査では何も確認することができなかった。

次に路面幅については、1区と2区の間を流れる用水路を検討する必要がある。現在用水路となっはいるが、この用水路を挟んで東は大字一条で、西は大字西牟田になっており、ちょうど用水路が字境になっている。この用水路は、久留米市荒木町の西海道跡2次に向かっており、おそらく東側溝は用水路として現在まで利用されていたと思われる。この用水路を東側溝と考えると今回検出した3条の溝と用水路との間で、路面幅約6～8mの道路が復元できる。西海道跡1次、古賀前・車地遺跡、西海道跡2次、山ノ井川口遺跡、鶴田中市ノ塚遺跡などの調査からは時期が下るにつれて道路幅が縮小していく状況が分かっているので、用水路との間でそれぞれ5号溝（8m）→4号溝（7m）→3号溝（6m）と縮小していくのではないかと考えられる。なお、この道路幅は、現在の用水路との間での数値なので、本来の道路幅とは多少異なっていると思われる。

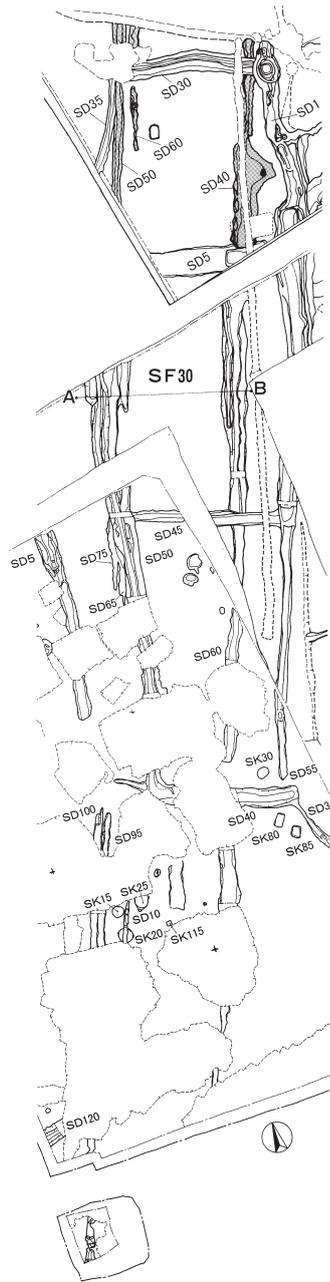
このように今回検出された3条の側溝は、他の筑後国府以南を通る西海道と共通の特徴



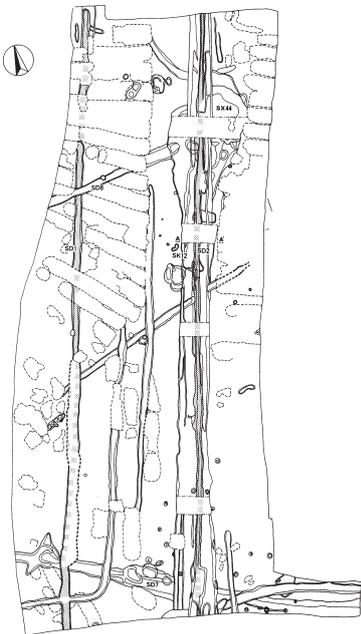
写真 15 現在の調査地風景（西から）



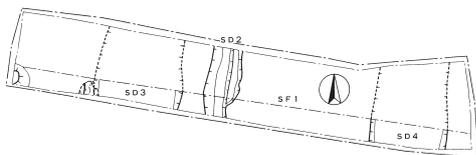
1. 西海道跡 1次 (久留米市)



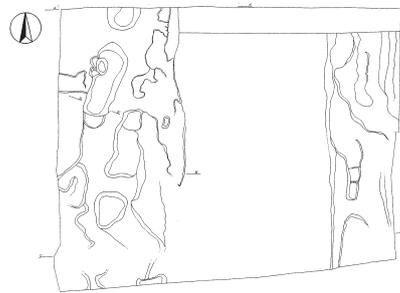
2. 古賀前遺跡 (久留米市)



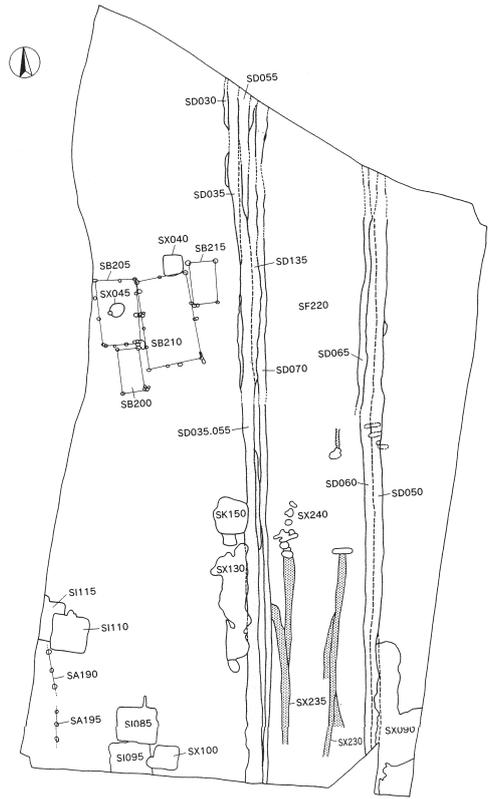
3. 車地遺跡 (久留米市)



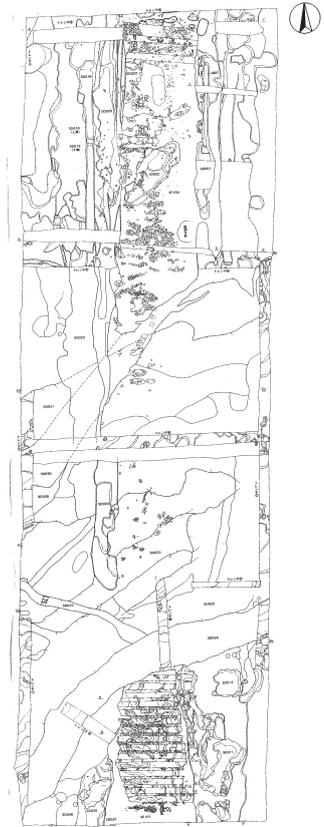
4. 西海道跡 2次 (久留米市)



6. 山ノ井川口遺跡 2次 (筑後市)

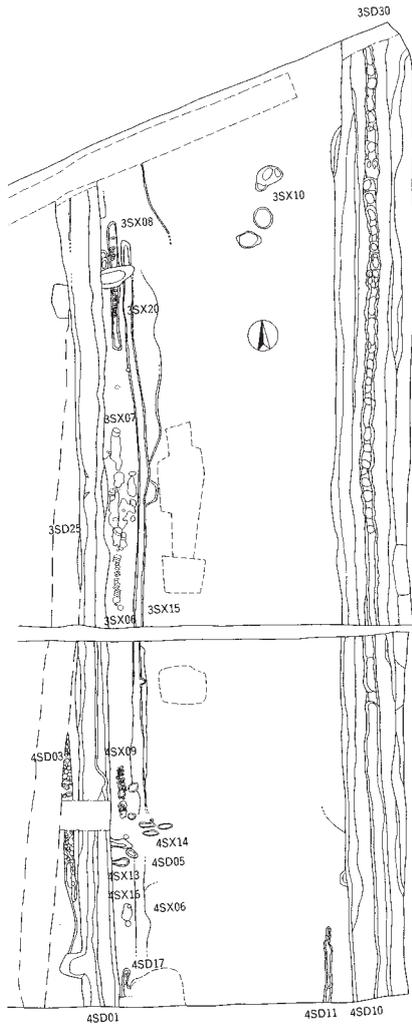


5. 羽犬塚山ノ前遺跡 (筑後市)

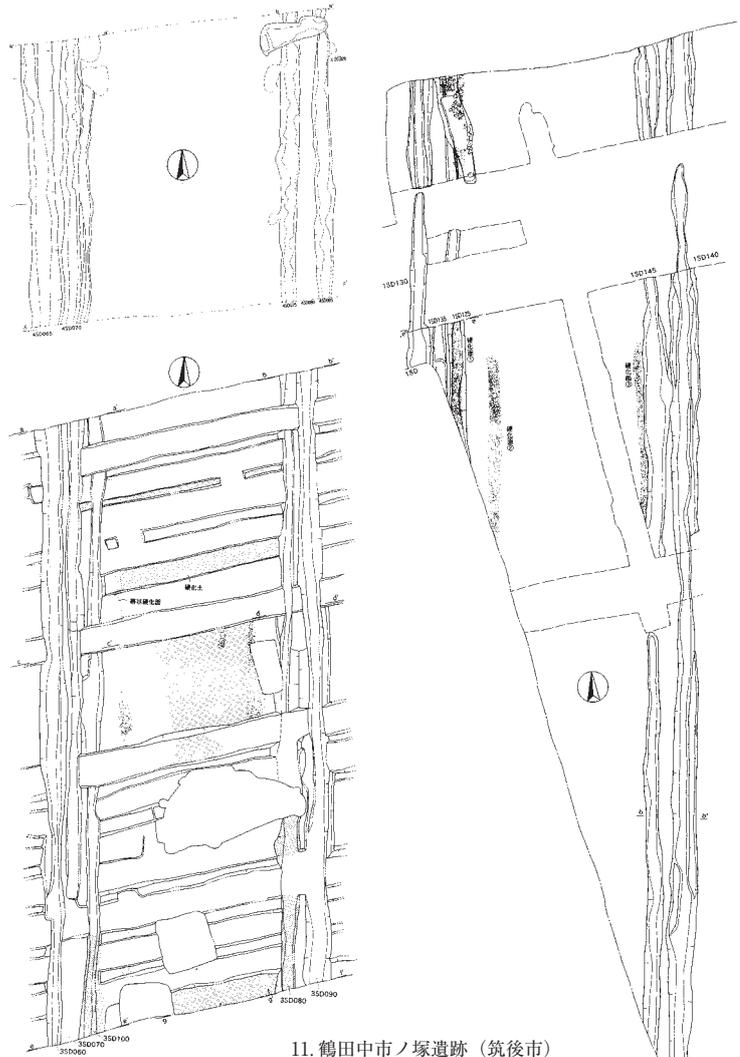


7. 山ノ井川口遺跡 1次 (筑後市)

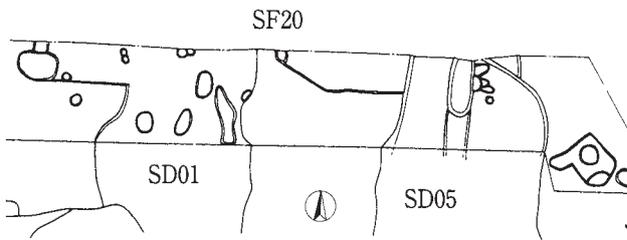
第6図 筑後国府以南検出の道路遺構図 1 (4・6は 1/300、他は 1/600)



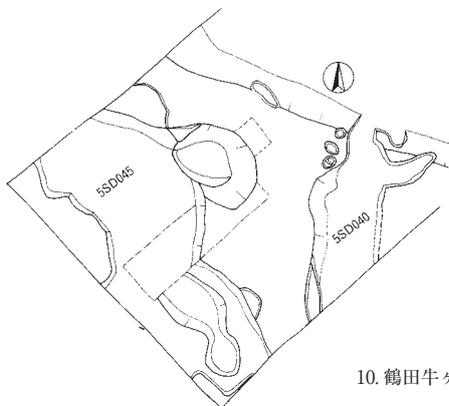
8. 山ノ井南野遺跡 (筑後市)



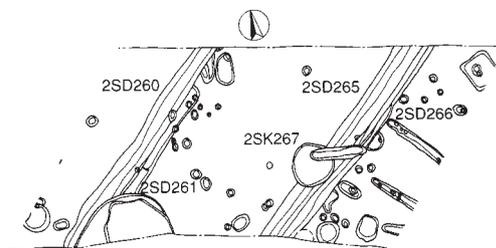
11. 鶴田中市ノ塚遺跡 (筑後市)



9. 鶴田木屋ノ角遺跡 (筑後市)



10. 鶴田牛ヶ池遺跡 (筑後市)



12. 羽犬塚射場ノ本遺跡 (筑後市)

第7図 筑後国府以南検出の道路遺構図2 (1/300)

(両側溝をもち、側溝には掘り直した痕跡がある、また路面幅が時期が下るにつれて縮小していく状態 [※羽犬塚山ノ前遺跡では、葛野駅の関係で、時期が下るにつれて拡大していく逆の場合がある]) を持つことが分かった。今後も筑後国府以南を通る西海道跡についての研究を進めたい。
 なお、今回の調査が西海道の研究に少しでも役立てていただければ幸いである。

番号	遺跡名	場所	道路幅(m) ※側溝間の心々幅 ()内は路面幅	路面などの状況	側溝	時期	備考	文献
1	西海道跡1次	久留米市諏訪野町字上牟田	8.5 ~ 13	路面は削平されているが、一部パラス敷きあり	○	8世紀前半～ 9世紀後半	路面に両側溝を繋ぐ溝(湿気抜き?)がある。側溝は掘り直しの痕跡あり	2
2・3	古賀ノ前遺跡(4・10・13次)・ 車地遺跡(3次)	久留米市藤光町字古賀前、 字車地	10 (9→8→5)	路面は削平され、不明	○	12世紀には 機能停止	側溝は掘り直しの痕跡あり、 時期が下るにつれて狭くなる	3・4・ 5・7
4	西海道跡2次	久留米市荒木町字東	12.5 → 11 → 9	路面は削平され、不明	○	14世紀代には 廃絶か	側溝は掘り直しの痕跡あり、 時期が下るにつれて狭くなる	6
5	羽犬塚山ノ前遺跡	筑後市大字羽犬塚山ノ前	8→8→8.9→ 10.3→11.5→11	帯状硬化面や波板状、刺突状、 ピット状の痕跡あり	○	8世紀代～ 9世紀前半	道路は切り通し状に造られ、側溝は 掘り直しの痕跡あり、時期が下るに つれて広がる	11
6・7	山ノ井川口遺跡(1・2次)	筑後市大字山ノ井字川口	12.1 → 8 → 6.3	盛土整地され、溝状、波板状、 刺突状の痕跡あり	○	8世紀代	道路遺構は3路復元できる。側溝は 時期が下るにつれて狭くなる	10・13
8	山ノ井南野遺跡(3・4次)	筑後市大字山ノ井字南野	約11.0 (9)	帯状硬化面、ピット状 (波板状?)の痕跡あり	○	側溝は9世紀代、 13世紀代に埋没	側溝は掘り直しの痕跡あり、底内に ピット状の痕跡あり	12
9・10	鶴田木屋ノ角遺跡・ 鶴田牛ヶ池遺跡(2・5次)	筑後市大字鶴田字木屋ノ角、 字牛ヶ池	12.5	一部のみ掘り下げしか行っ ておらず、詳細不明	○	側溝は8世紀後 半には埋没	鶴田牛ヶ池5次では東側溝を検出	8・9
11	鶴田中市ノ塚遺跡 (1・3・4次)	筑後市大字鶴田字中市ノ塚	11 ~ 10 → 9.2 ~ 8.5 → 8.1 ~ 7.6	硬化土や幅30cmの帯状 硬化面あり	○	13世紀前半まで には廃絶か	道路遺構は3路復元できる。側溝か ら8世紀～9世紀代の遺物が出土	10
12	羽犬塚射場ノ本遺跡	筑後市大字羽犬塚字射場ノ本	6.5	路面は削平され、不明	○	8世紀	側溝は掘り直しの痕跡あり、 伝路の一部か	1

表1 筑後国府以南で検出した道路遺構

(参考文献)

日野尚志 1978 「筑後国上妻郡家・下妻・山門・三毛四郡における条里について」『佐賀大学教育学部研究論文集』第26集
 木下良 1978 「車路」考—西海道における古代官道の復原に関して』『歴史地理研究と都市研究』
 高橋誠一 1979 「筑後国」『古代日本の交通路』IV 大明堂
 松村一良 1983 「筑後地方を縦断する古代駅路」『MUSEUM KYUSHU』第9号
 松村一良 1994 「古代官道跡」『久留米市史』第12巻資料編(考古)
 水原道範 1994 「筑後国府周辺の道路状遺構」『古代交通研究』第3号 古代交通研究会
 神保公久 2002 「筑後国」『日本古代道路事典』八木書店
 小林勇作 2007 「福岡県筑後市周辺の遺跡」『月刊考古学ジャーナル12月号(566号)』ニューサイエンス社
 調査報告書
 (1) 永見秀徳 1991 『羽犬塚射場ノ本』筑後市文化財調査報告書第17集 久留米市教育委員会
 (2) 水原道範 1992 『古代官道・西海道跡』久留米市文化財調査報告書第76集 久留米市教育委員会
 (3) 小澤太郎 1994 『上津・藤光遺跡群』久留米市文化財調査報告書第86集 久留米市教育委員会
 (4) 小澤太郎 1996 『上津・藤光遺跡群』久留米市文化財調査報告書第111集 久留米市教育委員会
 (5) 小澤太郎 1997 『上津・藤光遺跡群』久留米市文化財調査報告書第130集 久留米市教育委員会
 (6) 富永直樹 1998 「西海道跡(第2次)」『平成9年度 久留米市内遺跡群』久留米市文化財調査報告書第140集 久留米市教育委員会
 (7) 小澤太郎 1998 『上津・藤光遺跡群II』久留米市文化財調査報告書第145集 久留米市教育委員会
 (8) 永見秀徳 2001 『筑後東部地区遺跡群VI』筑後市文化財調査報告書第36集 筑後市教育委員会
 (9) 上村英士 2002 『筑後市内遺跡群III』筑後市文化財調査報告書第44集 筑後市教育委員会
 (10) 小林勇作 2002 『筑後市内遺跡群IV』筑後市文化財調査報告書第45集 筑後市教育委員会
 (11) 小林勇作 2003 『羽犬塚山ノ前遺跡』筑後市文化財調査報告書第48集 筑後市教育委員会
 (12) 上村英士 2005 『山ノ井南野遺跡II』筑後市文化財調査報告書第59集 筑後市教育委員会
 (13) 上村英士 2008 『筑後市内遺跡群XI』筑後市文化財調査報告書第85集 筑後市教育委員会

報告書抄録

ふりがな	さいかいどうあと							
書名	西海道跡							
副書名	県道三潁上陽線関係埋蔵文化財報告							
巻次								
シリーズ名	福岡県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第224集							
編著者名	坂本真一							
編集機関	福岡県教育委員会（教育庁総務部文化財保護課）							
所在地	〒812-8577 福岡県福岡市博多区東公園7-7 TEL 092-651-1111 FAX 092-643-3878 E-mail kbunkazai@pref.fukuoka.lg.jp							
発行年月日	西暦 2009年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さいかいどうあと 西海道跡	ふくおかけんちくごし 福岡県筑後市	40211	1300-1	33° 14' 46"	130° 30' 30"	2008. 8.18 ～2008. 9.18	133m ²	県道三潁 上陽線 交差点 改良事業 (道路拡幅)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
西海道跡	その他 (道路跡)	奈良時代	溝3条	土師器片		西海道跡の西側溝		
		時期不明	溝2条					
要約	筑後国府以南の西海道の路線推定線上で、西側溝を検出した。							

福岡県行政資料

分類番号 JH	所属コード 2114107
登録年度 20	登録番号 10

福岡県文化財調査報告書 第224集

西海道跡

平成21年3月31日

発行 福岡県教育委員会

福岡市博多区東公園7番7号

印刷 有限会社 北九州カーボン印刷

〒803-0835 北九州市小倉北区井堀3丁目6-9